シグマ研究委員会核データ専門部会全体会合

日　　時：昭和55年4月21日(月)　13：30～17：30

場　　所：原研本部第1会議室

出 席 者：大沢，小林，渡部，八谷，村田，菰田，吉田，山越，神田，松延，飯島，播磨，川合，中村，平本，杉，中川，松本，中島，西村，浅見,(哲)，田中，菊池，五十嵐

配布資料：

1. シグマ研究委員会核データ専門部会連絡会議事録
2. 核融合核データ・ワーキング・グループ55年度計画（案）
3. FPデータ評価ワーキンググループ活動
4. 核データ専門部会ガンマ線生成核データWG運営委員会説明資料
5. 核データ専門部会，核データ評価コードWG，55年度作業計画(案)
6. 核データ専門部会メンバー表（案）

議　　事：

I　JENDL−3計画の概要説明（五十嵐）

シグマ委員会運営委員会において，JENDL−3作成について，内容，タイムスケジュールなどを検討する小委員会が設けられて目下検討中である。

当専門部会はJENDL−1，−2の作成においては多大の貢献をして来たが，JENDL−3においては更にその内容の充実，質の向上を目指して行く必要がある。

JENDL−1，−2での経験から，特に核データ評価の方法の確立，計算コード類の整備の必要性が感じられる。

以上のような背景から，1月10日に各WGのリーダーが集って資料1にあるような問題を検討し，55年と56年には核データの評価方法の確立と計算コードの整備を重点的に行うことを確認し，1月21日および3月4日付の案内状でメンバー全員に通知し，意見を問うた。

現時点で決まっていることは，

(i)　JENDL－3は59年度末に公開することを目指す。

(ii)　55年度と56年度は計算コードの整備と核データ評価法の確立に集中する。

(iii)　JENDL－3のための評価と編集は57～59年度に集中して行う。

ことで，JENDL－3の核種などは検討小委員会の答申を持って決る。

当専門部会はWGを改組して，従来の重核データWGと，軽・中重核データWGの1部を核データ評価コードWGとし，軽・中重核データWGの主要な作業内容であった核融合関連の核データの要求に対する調査等を行うWGとして核融合核データWGを新に発足させることにした。従来の評価担当者は直接核データセンターと連絡して評価結果をまとめることとし，また新たな測定データのオッチを継続して行くことにした。

FP核データWGとガンマ線生成核データWGはそのまゝとする。

II　55年度作業計画

各WGの55年度作業計画について資料2～5により説明があった。

特に資料5の核データ評価コードWGの作業内容については，当会合の主要な討議事項であるので質疑応答が活発に行われた。

主なものをあげると：

(イ)　direct とか pre－equilibrium code の整備は具体的にどんなことを行うのか。

(ロ)　threshold reaction code と direct, pre－equilibrium code の整備は一緒のサブWGでやるべきではないか。

(ハ)　競争過程としては相互に関連するので，将来はモジュール化を考えるべきである。

(ニ)　direct capture はどうするか。

(ホ)　cross section だけでなく，angular distribution もちゃんとやらなければならない。

(ヘ)　GROGI code の整備をガンマ線生成核データWGで行っているので，それができれば threshold reaction code 整備はやらなくとも良いのではないか。

(ト) GNASH code と言うのがある。検討してみる必要がある。

(チ) 実験データの検討をやるグループも必要ではないか。

(リ) 評価方法についてはどうするのか。

Ⅲ WGの作業分担とメンバー

以上の討論を踏まえて，評価方法を検討する見地から実験データの検討を行うサブグループを作ることにした。作業内容の詳細はサブグループ内で決めることであるが，測定データの compilation とか誤差評価との 関連も考えておいて欲しい。また実験データを検討する際の教科書的なものをまとめて欲しい，等の要望が出た。

サブグループメンバー：

村田（リーダー），神田，田中，浅見（哲），西村，松本

計算コード整備については，いろいろ議論があったが，

(1) optical model, threshold reaction, direct, pre-equilibrium code 類の整備

(2) resonance parameter の評価

(3) fission cross section 計算用 code の整備

の3つのサブグループとすることにした。

メンバーは，

(1)が，五十嵐，菊池，水本，浅見（哲），川合，山越，浅野，中川，八谷，菰田

(2)が，浅見（明），中川，中島，瑞慶覧

(3)が，菊池，大沢，村田，浅野，松延

とした。

Ⅳ そ の 他

作業を進めて行く過程で，他のグループとの調整が必要になる場合が起きることが考えられる。その際の調整機関としては各サブグループリーダーおよび直接担当者による連絡会を考えておく。

評価の道具としてメカニカルな評価の道具を核データーセンターで作って欲しい。

ガンマ線生成WGで，line－spectrumのfile化を行うテストとして1核種について実行してみて欲しい。

誤差評価はUserも含めて検討して欲しい。→近々に報告書を出す（神田）。

ＪＥＮＤＬ－２のデータについて各担当者からabstractを提出して欲しい。

計算コードのお守りはどうするのか → ２年後に考える。

全体会合は開かないので，各ワーキンググループおよびサブグループで自主的に作業を進めることで合意した。